

氏名	大塚正樹
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第4452号
学位授与の日付	平成27年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目	Sentinel lymph node biopsy for 102 patients with primary cutaneous melanoma at a single Japanese institute (日本の1施設における皮膚原発悪性黒色腫102患者に対するセンチネルリンパ節生検)
--------	---

論文審査委員	教授 吉野 正 教授 木股 敬裕 教授 柳井 広之
--------	---------------------------

学位論文内容の要旨

センチネルリンパ節生検(SLNB)は臨床的に転移のない皮膚悪性黒色腫患者に対して広く行われている。2000年～2014年の間に我々の施設でSLNBを施行した日本人の皮膚悪性黒色腫102例を対象として、原発巣の臨床病理学的特徴とセンチネルリンパ節(SLN)転移の有無、さらに臨床病理学的特徴と黒色腫特異的生存期間(MSS)、無病生存期間(DFS)を後ろ向きに検討した。SLN転移は原発巣の厚みと相関していた。SLN転移あり43例と転移なし59例で比較すると、転移ありは転移なし症例と比較して有意にMSS、DFSが不良であった。SLN転移あり症例のうち、所属リンパ節郭清を追加した41例の解析では、SLN以外のリンパ節にも転移を認めた9例は転移を認めなかった32例と比較してMSSが有意に不良であった。白人ではアジア人に多い病型である末端黒子型(ALM)の予後が悪いとされるが、我々の症例ではそれは示されなかった。白人と同様、原発巣の厚みは日本人でもMSS、DFSの規定因子であり、SLN転移の有無は最も重要な予後規定因子となった。しかし、ALMの特徴は白人とアジア人で異なる可能性がある。

論文審査結果の要旨

本研究は皮膚悪性黒色腫患者についてのセンチネルリンパ節生検の臨床病理学的特徴を検討したものである。102例の患者さんに対してセンチネルリンパ節転移ありは43例、なしは59例であった。前者は後者に対して有意に黒色腫特異生存率、無病生存率とも低かった。センチネルリンパ節陽性例で所属リンパ節廓清を追加した41例のうち9例はセンチネル以外にも転移がみとめられ、それがなかった32例と比較して黒色腫特異生存率が有意に低かった。白人ではアジア人に多い病型である末端黒子型の予後が悪いとされているが、今回の検索例ではそのような現象はなかった。原発巣の厚みは黒色腫特異生存率、無病生存率の規定因子であり、このことは白人でも同様であった。

研究の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、皮膚黒色腫に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。